

# 競技・地方・年度別に見るスポーツ観戦者の男女比率

スポーツマネジメントゼミナール 1213018 井戸 悠貴

## 1. 研究動機・研究目的

近年、スポーツの観戦者数は、プロスポーツ界で見ると年々減り続けている(日本プロスポーツ協会, 2015)。その中でも2015年は「カープ女子」「セレ女」「スー女」といった言葉が流行し、野球・サッカー・相撲では女性観戦者の比率が上がった(トレンドアース, 2015)。カープ女子と関連のあるプロ野球界では、2015年3月に首都圏5球団共同事業「野球女子“倍増”PROJECT」が開始され、このプログラムの成果が女性の観戦者を引き寄せた一因だと言っても過言ではないだろう。しかし、サッカーや相撲は女性向けイベントをやっているわけではなく、自然と女性観戦者が増えていったというのが流れである。また、これをスポーツ界全体としてみても、女性観戦者向けのイベントや企画を行っている競技及びチームはまだ少なく、その観点への関心が低い傾向があると思われる。

スポーツ観戦者の研究は、これまで一つのチームのみを対象とした研究が多く、競技全体の現状を図った研究が行われていない。対象となるチームの観戦者のデータを集め分析した上で、お客様のニーズに応えていく目的を持っているため、今後の研究では「チーム」という単位から、「競技」という単位でスポーツ観戦者の特性をみていく必要があると考える。

本研究では、「競技間」「地方別」「年度別」3つの観点を軸に、スポーツ観戦者の男女比率に変化があるのか、またその変化はどのような要因が影響しているのかを明らかにすることを研究の目的とした。

## 2. 研究方法

- 1) 調査対象: 「プロ野球」「Jリーグ」「男子バレーボール」「女子バレーボール」の3競技4種目。
- 2) 調査方法: 文献調査
- 3) 調査対象情報源 (1) 競技のリーグ組織および加盟するチームのホームページ  
(2) スポーツ観戦者の特性に関する先行研究
- 4) 調査項目: 競技種目、本拠地、調査実施年度、観戦者の男女比率
- 5) 分析方法: 収集したデータから一覧表を作成し、観戦者傾向を分析する。
- 6) 調査期間: 収集期間 2016年3月9日～6月30日  
分析期間 2016年7月1日～8月31日

## 3. 主な結果と考察

まず競技間におけるスポーツ観戦者の男女比率は、「プロ野球とJリーグ」の関係以外で有意差が見られた。この背景として考えられることは、「カープ女子」や「セレ女」といった野球とサッカーに関連する女子観戦者人気を象徴する言葉が流行したのは2014年という最近であり、つまり近年でようやく女性の観戦者が増えてきたという捉え方もできる。またバレーボール競技は、名前に「男子」「女子」と付くように、既に各性別で競技が確立され

ているが、野球とサッカーは女子競技としての歴史は浅く、発展途上の競技と言える。したがって、この似た競技特性が、競技間で差がでなかった原因ではないかと考える。

競技内で地方分析した結果は、野球以外の競技において有意差はなかった。その背景として考えられることは、プロ野球とJリーグに関しては流行った言葉がまだ最近のことで、女性の観戦者の需要の流れがまだ来ていないのではないかと考える。バレーボールに関しては、チームの属する地域が本州のみに限られたことが原因ではないかと考える。

同地方・同都道府県に所属する野球とサッカーの2つのチームで比較したが、7つのどの地方でも有意差は見られなかった。この背景には、競技関係なく同地区のチーム同士で協力することで、チケットの共通販売なども行っている地域が多数いることが考えられる。また、地方球団であるバスケットのプロリーグのチームとも、密に連絡を取り合うことも特徴が似た要因の一つではないかと考える。

各競技内でランキングに見る年度の変化を比較した結果、プロ野球では、全体的に女性比率が高いブロックと低いブロックで二分化が起きており、高いブロックには、女性向けのイベントやユニホーム配布などを積極的に行っているパ・リーグの球団が多くみられた。Jリーグでは、3年間の観戦者データを比較した結果、全体的に、Jリーグでは1年ごとで男女比率が激しく変化するということは見られなかった。その中でも、「サガン鳥栖」の男女比率は、2013年では24位、翌年には7位にその翌々年には3位にまで上がり続けていることがわかり、チームでの女性向けの取り組みの成果がでたのではないかと考える。

#### 4. 結論

競技別でのスポーツ観戦者の男女比率は、野球とサッカーの関係を除き、ある特徴が見られた。男女バレーボールは、野球とサッカーと比べて女性観戦者の比率が高く、過半数を超えるのが一般的で、特に女子バレーボールは7割を超える結果となった。野球とサッカーで違いがあまりないことから、観戦者の特性が似ているともいえる。

地方別にみるスポーツ観戦者の男女比率には、唯一「プロ野球」で女性観戦者の比率に差が見られたことから、今後将来的に、他競技でも地方ごとの女性観戦者の比率が確立していくことが予想される。特に、プロ野球とJリーグに関して、同地方・同都道府県での分析結果で、傾向が似ていること、そして同じ地域として競技間をまたぎ、協力し合うコンタクトが既にとられている傾向があることからわかる。

年度別にみるスポーツ観戦者の男女比率は、年々変化し女性観戦者の比率は上昇していることがわかった。しかし競技全体では増加傾向だが、チームや球団といった単位では増加していないチームもあった。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を通して、誰もやったことのない研究だったので不安を抱えながらで、女性観戦者が増えている「相撲」や、元から女性観戦者が多い「フィギュアスケート」との比較も行うことができたらもっと新しい結果が出たかもしれないと思うと少し悔しい部分もあるが、計画通りの方法で進めることができ、非常に満足しています。

最後に、本研究を進めるにあたって、日々支えてくださった小笠原先生には、深く感謝申し上げます。